

(様式7-3)

政務調査活動・先進地調査等 報告書

令和2年2月12日

三田市議会議長

様

本会派（私）は、政務調査活動・先進地調査等報告書を下記のとおり提出します。

会 派 名	新政みらい	代表者	厚地 弘行	印
		議員名		
派遣者氏名	厚地弘行 田中一良 北本節代 佐貫尚子 西上俊彦 中田 哲			
視察先及び 調査事項 (調査目的)	千葉県大網白里市 (デジタル博物館) 銚子市 (銚子スポーツタウン)			
日 時	令和 2年 1月28日(火) ~ 2年 1月29日(水)			
視察先対応者	大網白里市 岡田憲二文教福祉常任委員会委員長 鶴岡議会事務局主任書記 齊藤教育委員会生涯学習課長 銚子市 岩井文夫議長 原議会事務局長 観光商工課金島 (株)銚子スポーツタウン取締役支配人滝田靖			
(調査結果の概要及び所見) 別紙でも可				
別 紙				

会派支給の場合、会派名、代表者名を記入の上、押印してください。

個人支給の場合、会派名（無会派は記入不要）、議員名を記入の上、押印してください。

調査日時	令和2年1月28日(火) 14:00~15:30
視察先	千葉県大網白里市
調査事項	デジタル博物館 文化財・民芸品・考古資料などのWEB展示
<p>(調査結果の概要及び所見)</p> <p>● 調査結果概要</p> <p>デジタル博物館について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業予算2300万円 9割 文化振興財団助成金活用 ランニングコスト年間30万円 ・設立経緯 ⇒ 博物館・史料館・美術館などの施設なし、文化財担当職員2名のみ 施設、財政、人員の限界 ⇒ 閉塞感⇒デジタルミュージアムの潮流⇒先進事例になるが予算にゆとりなし⇒助成金研究・発見⇒<u>文化資源たくさんあるが施設がない⇒収集・保存・調査研究論文・展示発信が必要。⇒全国でも希少なデジタル博物館で弱みを強みに!</u> ・文化資源の発掘・整理⇒神社・文化センター保存品、絵馬、イワシ文化、中世の城郭、考古資料、郷土芸能、古文書伝統・民話、方言迷信、祭礼、古い写真、古美術品、陶芸作品、古地図等 ⇒ 市史の編集も必要。 ・複数のテーマ ふるさと納税との連携 観光資源 教育連携 多文化共生 地方創成の軸事業に。 ・展示物をウェブによる公開 解説文付き高精度画像 <u>拡大縮小 全方位回転可能(3D画像) 高精度画像で材質の質感、使用感まで楽しめる。</u> ウォーキングマップとリンクさせ、イメージを統合。 市史を入力し キーワード検索可能。 <u>⇒専門的なキーワードや関係性が即座に調べられる。</u> 文化財 伝統文化 踊り イベント映像 民謡 民話 などを動画により保存公開 ⇒閲覧機会増え文化の浸透が進む。⇒後継者不足解消へ。 ・効果 閲覧件数 H29 21,476件 ⇒ H30 22,001件 ⇒ H31 19,876件 <u>市HP閲覧件数と同等の高水準を安定的にキープ。</u> 教育波及効果 教育現場でたびたび利用される。⇒デジタル教育と市史歴史文化教育との相互効果を発揮。 ・課題 <ol style="list-style-type: none"> ① 恒常的財源ランニングコスト年間30万円、+拡充コスト 各種助成金の研究。 ② 新規展示物の開発と棄損展示物の復元作業。 ③ 地図の解析 大正時代の地図と現在の地図との重ねる⇒過去の災害履歴情報などとリンクさせて災害対策利用。 ④ 音声解説機能の付加。 ⑤ 撮影手法などコストパフォーマンスの検討。 ⑥ 市内企業の中から、撮影・編集・維持管理・開発を担当できる業者を開拓育成。 	

●質 疑

Q 展示品すべて3D画像にできるのか。

⇒撮影予算に限りがある。特に展示価値の高い展示品を選び3D化している。

Q 個人所有物は個人の責任負担で保管・修復しているのか。

⇒地域、寺院や、市が保管しているものが主。民間への管理修繕補助などの制度は今後の課題。

Q ナイトミュージアムとはなにか。

⇒会館時間の延長したイベント 職員や社会人向けに開催。

Q 学校教育現場にどれくらい使われているか。

⇒追跡調査はしていないが、社会科副読本として多数利用されている。

Q 開発の2年間の中で職員のかかわり方は

文化財全般見ている中であったが、重要施策として位置付けており、3分の1程度の時間・労力を割いたのではないかと。

Q 民間へ委託は地元の業者か

⇒千葉市の業者をプロポーザルにより決定。(参加1社のみ) 地元事業者開拓は今後の課題。

Q 高齢者の利用は。

⇒タイトルを整理して分かりやすさを追求しているが、やはり、若い人の利用が多い、高齢者向けに、一定期間場所を設け特別企画展を開催している。

Q コストの単価、契約方法は？3Dより動画のほうが安価でおさまるのではないかと。

⇒一日あたりのカメラマンの人件費という形で契約している。3D撮影時間かかるので、今後は動画、四方向等、作業効率を再検討する。

Q コアな文化ファンからのデジタル化への否定的な意見などはなかったか。

⇒多少のクレームも想定していたがネガティブな反応は現時点でほとんどない。

【所見】

デジタル博物館で想像していたことは、様々な文化物、展示物をパソコンなどの画面で見るとなっているものと考えていたが、予想以上に楽しめるものであり、結論的に言えばICT技術の活用しだいでまだまだ利便性、有効性を高めることができるものであった。

例えば陶器の展示品を通常の博物館で見える場合、外観を一周すればその全容を見ることができるが、真上から見たり、器の底から見たりすることは大抵はできない。しかしデジタル博物館では3D画像で処理されているものがあり、その場合自分の見たい方向から自由に見ることができる。また展示品との距離も自由に変えられる。つまり展示品を最大に拡大することができるので、小さな皺や模様、キズでさえも見ることができる。

また昔の地図と現在の地図や航空写真とも重ね合わせることができる。地図を比較することで川の変化、道の変化、町の変化変遷を辿ることができる。消失してしまった建物の位置を推測することもできる。歴史の書物でも新しい発見を見いだす可能性がでてくる。地域史を研究するには効果的である。大網白里市では地図を使って防災活動にも使えると期待している。地域の歴史書などはデジタル化されているのでキーワード検索ができるため、これまで一つの事象を調べるのにたくさんの書物を読む必要があったが、検索で大きな時間短縮になっているという。

また地域に伝承する踊りの画像での保存や再生にも活用されており、高齢化や後継者が途切れても伝統文化の記録を確実にするものとしている。デジタル博物館は無形文化財の保存・展示にもたいへん適していると思う。その他様々な技術を活用することでデジタル博物館では多くのチャレンジができるのではないかと思う。尚、大網白里市ではこのデジタル博物館の取り組みは安価な博物館の運営という財政上の課題を図るためのものでもあるが、先進的な取り組みとして広げて行くことも目指すところであるという。

先人の残した物から学べることは多いと思う。三田市にも多くあると思われる文化財について保存と展示、そして市内に隠れた貴重な財物の掘り起こしにもなるものと思う。「日本で初めての民間博物館」を過去有した三田市としては、ぜひ取り組んでほしい事業であると感じた。

視察先：千葉県銚子市

視察目的：銚子スポーツタウンについて

視察概要：銚子市役所において岩井市議会議長及び原事務局長に面談

その後銚子スポーツタウンに移動し説明を受けた

施設の目的はスポーツ合宿誘致を核に観光産業を活性化・ブランディングさせることであり、交流人口の増加により移住や定住促進に結びつける。

銚子市では銚子商業のエースであり元プロ野球のロッテで活躍した木樽正明氏がスポーツアドバイザーとして就任している。木樽氏は指導者としての資格を取得後、少年やシニアへの指導をすると共に野球のまち銚子の復活を目指した。スポーツによる地域活性化を掲げるNPO法人の小倉理事長と意気投合し構想を市へ提案した。

市の強みである豊富な観光資源、冬暖かく夏は涼しい気候、東京や成田から近い、特色あるスポーツ大会が行われていることを活かしてスポーツによるまちづくりを目指すこととなった。2校あった高校のうち1校が廃校したことにより、廃校の市立銚子西高校をスポーツ施設として活用することができないか調査した。国の補助事業を調査した。NPOに対する市の考え方は、市が施設整備することは困難、施設改修はNPOが実施すること、但し国等の補助金は積極的に活用する、市の支援策としては土地や建物の無償貸与を検討する、こととした。2016年銚子スポーツタウン協議会の議論を踏まえ市として事業を推進することを決定した。株式会社銚子スポーツタウンの資本金500万円は銚子市250万円とNPO役員らが出資する。

2017年2月地方創生拠点整備交付金が決定し、1億2,000万円で体育館を改修した。クラウドファンディングにより11,749,000円の寄付を達成した。施設の運営は協議会で行う。協議会のメンバー構成は銚子市、NPO、商工会議所、観光協会、体育協会銀行などが入る。2018年4月本格的にオープンした。2018年度の実績は8,492人の宿泊数と20人を超える雇用につながった。

施設整備内容は添付資料のとおり

◆現地視察 観光商工課金島さんより説明、滝田支配人より現地説明

食堂・150名が同時に利用可能 配膳はセルフサービス 追加料金でお変わり自由
コインランドリー・コイン式洗濯機の大型機を10台設置。コイン式乾燥機があり
利用者が洗濯物干しに追われることなく好評である。

浴場・トイレ・大中2つの浴場は適当なサイズと思われる

野球場・芝生の維持管理については委託せず自分たちで行っている。

取り崩した校舎の跡地に更に野球場1面の整備を進めている。

体育館・・ピッチイング練習ができる屋内スペースがある。ダンススペースには壁面をガラス面に改修されている。鉄棒もあり少年少女の体操の練習ができる。2階のアリーナは広くバスケットコート2面が十分に使える。

千葉ジェッツのジュニアチームがよく使う。

宿泊棟・・以前は部室であった建物を改修した。最大8人だが通常6人で使う和室が19部屋ある。中は布団のみ置いてある。洋室よりも和室のほうがスペース確保ができるとのこと。

◆課題

- ・現金は残るが決算ベースでは赤字である。減価償却費が大きい。
- ・平日の利用を増やしていく必要がある。高齢者のグランドゴルフを大会で試してみたが、高齢者は普段から無料でグランドゴルフをしているため有料での施設利用は難しい。
- ・施設の認知度を高めていく必要がある。
- ・隣接する神栖市はサッカーの聖地としてよく使われるため野球利用を中心に進めてきたが、神栖市のサッカーイベントで入りきれないことがあったので、今後サッカー利用も進めていく。

【所見】 三田市は都市より近く、市域も広く公園の面積も多いのでスポーツするための環境としては良い立地と、施設環境も良いのではないかと思う。銚子市のスポーツタウン構想を視察し改めて感じた。

銚子の強みとして東京から近いということであったが、電車で2時間半以上もかかったので「近い」のかどうかは不思議であった。三田市と比較すると大阪・神戸から1時間もかからない距離であり、三田市のほうがより利便性は高いと思う。首都圏と関西圏の事情の違いがあるかもしれない。

銚子市では構想実現のための条件として、施設整備を市は行わないが国の補助金等には積極的に行うとした。また市立高校の廃校の跡地を活用している。このような事は地方都市の限られた財政事情のもと、三田市でも同じように行えば可能ではないかと考える。銚子市の場合は元プロ野球選手の協力などがあったことは立ち上げ時点での大きな力となっている。

野球場やバスケットボールの体育館など施設は十分な広さがあると思うが、宿泊施設は6人部屋が狭く感じた。まさに寝るだけの部屋であり、中にはテレビなどの備品もなく物足りないのではないかと思う。部室の改装はレイアウトに限りがあるため無理があるかもしれない。経費を考えても可能ならば宿泊棟は一から建てたほうが良いのではないかと思う。

三田市のスポーツ振興及びまちづくりについて大いに参考になった。